

ILSI Japan 活動報告<2024>

事務局

【理事会】

1, 2 月	<p>第 1 回理事会が令和 6 年 2 月 7 日（水）に開催された。</p> <p>1. 令和 6 年通常総会審議事項・報告事項</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2023 年事業活動報告及び決算報告書案承認の件 山口事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、続けて俵積田次長決算の概要を資料に基づき説明した。 山田監事より、2023 年決算に関して監査の結果、決算が妥当であると報告があった。</p> <p>2) 2024 年事業活動報告及び収支予算書案承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画を報告し、同上次長が収支予算の概要と会費値上げ案を資料に基づき説明した。</p> <p>3) ILSI Japan への CHP 統合 審議事項 1)は異議なく承認された。 審議事項 2)については、ILSI Japan と CHP の収支を分けて説明すること、会費値上げ案は検討不足との理由で総会に提案することが却下された。 審議事項 3)は却下され、総会決議が必要な案件が発生した場合、迅速に総会を開催できるように、Web 開催など開催方法の変更案を提案することが決議された。</p> <p>報告事項</p> <p>本部動向 事務局長から、ILSI 論文の題材として、一番多いのはニュートリションであると説明した。 本部の 2024 年の総会でのセッション内容や今後の ILSI のターゲットについて説明した。</p> <p>2. 決議事項</p> <p>改選理事の承認 事務局長から重任理事、新任理事、退任理事に関して説明があり、満場一致で承認された。改選理事はその場で全員承諾した。</p> <p>第 2 回理事会が令和 6 年 2 月 25 日（日）に開催された。 改選理事が出席し互選の結果、引続き宮澤理事が理事長に選任され、その場で承諾した。他に副理事長に桑田理事、中江理事、谷口理事、阿部理事が選任され、その場で承諾した。理事長代行者を桑田副理事長とすることが決議された。会長職はアカデミア出身の理事長が選任されたので、空席とすることが決議された。</p>
3, 4 月	<p>第 3 回理事会が令和 6 年 4 月 17 日（水）に味の素本社の会議室にて Hybrid 形式で開催された。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>○本部への拠出金について 2024 年の ILSI 年次総会において各支部が総会開催費用を負担することが重要であると</p>

	<p>決議がされ、ILSI Japan は、USD 6,500 を負担することとされた。以前はそのような支出を支部が負担したことがないこと、負担決議に ILSI Japan のメンバーが参加したのか、また、一旦、前事務局長が負担金を断ったのに返答がなかった事実があったことなど種々議論した結果、ILSI Japan の財政が現在脆弱なため支払わない前提で本部に疑問点を確認することとした。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 本部情報 欧州が立ち上げた「ポストバイオティックス」プロジェクトの説明と本部の4つのワーキンググループの活動内容を事務局長が説明した。</p> <p>2) 支部情報 イ) ILSI Taiwan の日本訪問について、日程 (6/17-22) と訪問先について事務局長が説明した。 ロ) 第2回 ALSIN 会議が今年、韓国で開催されること、会議前のミニ・シンポジウムにヘルス・クレームの日本の専門家の参加を要請されたことを事務局長が説明した。</p> <p>3. その他 ILSI Japan の財政課題を早急に検討することを理事より事務局に要望された。</p>
5, 6 月	<p>(1) 第3回支部理事会フォロー (本部への拠出金について) (5/4, 21)</p> <p>1) 本部に対して下記ポイントを確認・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • どうして支部が本部総会の費用をカバーするのか (背景) ⇒ ILSI 組織体が代わり、総会費用については、支部で分担することがグローバル理事会で決定。 • 今後本部総会の費用を毎年支部が支払う形を継続するのか? ⇒ 本部総会の在り方も含め WG を作って議論している。 • 支払いを拒絶した場合はどうなるか? ⇒ ILSI グループからの退会となる。 <p>(2) 第4回支部理事会 (6/7)</p> <p>1) 本部総会資金 (US\$6,500) 捻出について 本部体制の変化、本部からの情報等、満足できない状況ではあるが、支部経費削減案を事務局が理事に提示したことにより、拠出金支払いについて、決議された。</p> <p>2) 理事会体制強化について 議長より ILSI Japan の情報発信の在り方、本部の情報の取り方がうまく行われていないと感じ、理事会体制の強化プランを提案</p>
7, 8 月	<p><u>2024 年第5回理事会 (7月17日開催)</u></p> <p>1. 理事会体制の強化 新理事候補者 5 名が推薦により選任され、特に異議なく決議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新理事の所属先と氏名は次の通り。東京大学 佐藤隆一郎様、東京農業大学 上原万里子様・小西良子様、国立研究開発法人農研機構 大池秀明様、東北大学 戸田雅子様。 <p>2. ILSI SEAR (イルシー東南アジア地域支部) との協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI SEAR より共同プロジェクト提案があり報告。ILSI SEAR に所属していない ILSI Japan 会員企業を対象にアジア地域でのネットワークを構築し、主要な科学のおよび優先的トピックスや ASEAN 市場への展開に関連性と影響を与える規制の展開について学ぶことを趣旨としたもの。具体的な説明が無いので賛同は難しいとの意

	<p>見が出て、再度確認することになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 共同プロジェクトのテーマについて、① マイクロバイオーム、プレ・プロバイオティクス、② 各国法規フォローアップ、等の提案あり。今後具体的にどのような連携が可能か考慮する。 <p>3. ILSI Japan の財務体制について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI Japan と ILSI Japan CHP とに分け、収入の他、人員及び給与、経費の内容を説明した。CHP については、人件費を支払うためには収入が最低 7 百万円/年必要 ● 来年度以降の CHP 事業に関して説明した。フレイルや MCI（軽度認知障害）に興味を有する会員企業に参加を募る提案をした。理事から様々な質問や意見が出た。活動を継続するには、サポート企業をさらに開拓するか、または ILSI Japan の研究部会と同様にテーマを出して会員から参加を募るか、どちらかであるとの結論に達した。
9, 10 月	<p>1. ホームページ改修費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社外からの使い勝手の悪さの指摘や、ILSI 本部や他支部のホームページと整合性がとれていない等の理由により、不具合な点を大幅に改修する提案をした。 ● 見積費用の妥当性、資金の手当てを説明した結果、全員一致で承認された。 <p>2. 研究部会残金の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 明確な活動実績のない研究部会の残金について、年度終了時に活動終了と見て事務局資金へ移すことを提案し、全員一致で承認された。 <p>3. 2024 年収支見込の報告（部会の収支は予算）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収入に関して予算に比し、会員の退会や新規会員の確保減、AI 栄養・機能性研究部会の第Ⅱ期参加者の減少により 9.5 百万円減収。 ● 支出に関して予算に比し、本部からの総会費用の一部負担による支出増を、バイテク情報普及会に人件費の一部を負担してもらうことなどによりマイナス 0.3 百万円と見込む。 <p>4. 第 23 回国際栄養学会議（ICN2025）への参加</p> <p>グローバル事務局長会議にて、パリで開催される ICN2025 への ILSI Federation としての参加について提案があった。</p>
11, 12 月	<p>第 7 回理事会開催（12/18 15:00～16:55）</p> <p>決議事項</p> <p>1. 定款変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理事の代理出席及び同行者出席について質問があり、定款に記載がないため議題とした。現在、書面表決の仕組みがあるとの理由で代理出席及び同行者は認めないと決議された。 ● 現在、定款では理事会の構成が理事のみと記載されていること、実際、監事が出席していることを考慮すると定款に監事の出席や表決権の有無及び議題に関する出席者を認める記載が必要との意見が出て、次回の理事会に案を出すよう指示があった。 <p>2. 2024 年収支見込案、2025 年収支予算案</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年収支見込案は、特に質問なく承認された。 ● 2025 年収支予算案について、賃上げの有無、会員勧誘のための方策、CHP テイクテン収支内容、内閣府の SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）参加等に質問があった。 ● 来年赤字予算を出すのであれば 3 か年計画を作成し、黒字化の展望を示すよう意見が出た。 ● ILSI Japan 会費の値上げの意見が出て、他の団体等の値上げ状況を調べるよう意見

	<p>が出た。</p> <p>討議・報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ALSIN 会議のフォロー <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI Focal Point in China の継承組織である Shanghai JS Life Sciences Institute (SJLSI) 及び本部が参加する今年 6 月に開催される「アジアアレルギー会議」への資金拠出と、参加時に「ALSIN 会議」の名称を出すことへの同意要請があり、資金は出さない、ALSIN 会議の名称利用は問題なしとなった。 2. SIP 参加について <ul style="list-style-type: none"> ● 内閣府が事務局をしている SIP の中の、包摂的コミュニティプラットフォーム構築の D グループ「障がい者、高齢者の生きがい向上策」の中の「デジタル同居サービスの開発」の協力参加機関として、2024 年に ILSI Japan 木村氏がコンサルタントとしてすでに参加している。 ● プログラムのターゲットが、働く世代から高齢者のフレイル予防へとシフトしており、食品産業の参加の余地ありと見て、参加を継続したい。 ● 昨年 11 月に公開シンポジウムが開催され、ILSI Japan の会員企業が 22 社参加していることが判明し、新研究部会の発足につなげればよいと考えている。 ● 2025 年参加の詳細は、2 月 5 日の理事会で担当者より再度説明する。 3. GR プロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ● グリセミック・インデックス (GI) に代わる GR (Glucose Releasing Rate) 法の研究について経過報告をし、課題内容、結論が見えてきたことを説明。終息の方向で桑田理事指導の下、進めている。 4. 本部情報 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025 年 8 月開催のパリ国際栄養学会議 (ICN) に ILSI が Federation として参加することが決定した。6 つのセッションを実施予定。日本はまだ参加を決めていない。 ● 本部総会は 2025 年夏にバーチャルで開催を予定、翌 26 年はリアルで開催する。 5. 2025 年 4 月以降の事務局体制について <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局長の出向契約が 3 月末に終了するため、次期事務局長の指名があった。
--	--

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>令和 6 年通常総会が 2 月 20 日 (火) 午前 10 時より江東区森下文化センター内会議室において開催された。</p> <p>正会員総数 50 名のうち総会出席数 15 名、書面表決 30 名であった。</p> <p>議長が正会員より 1 名選任され、以下議事を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 審議事項 <ul style="list-style-type: none"> 第 1 号議案 2023 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。 第 2 号議案 2024 年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。 第 3 号議案 定款変更 (総会開催方法の変更) <p>質疑はなし。</p> 2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 本部動向の説明 <p>事務局長が ILSI グローバルの論文の題材を多い順にまとめた資料について説明した。また 1 月に開催された年次総会のセッションの題名や、どのようなターゲットを目的としているかを説明した。</p>
--------	--

【事務局】

1, 2月	
3, 4月	<p>(1) 本部グローバル拡大理事会/事務局長会議 (3/26, 27)</p> <p>1) 本部総会 (経費総括、参加者数、今後の本部総会の在り方 WG 報告) 必要性：科学的リーダーシップの維持、科学的協働、科学教育、メンバー参画 ポイント：達成すべきポイントを再考、政府関係者の参画 (必要な議論は何)、優先順位付け、多くのテーマを一度に議論、スピーカーの選定、開催場所 (リゾート地) ⇒支部総会との接続、他団体との共催、完全オンライン、絞ったテーマで短期間、開催頻度</p> <p>2) ILSI Europe Postbiotics project (ポストバイオティクスの認識に関し現状把握、認識向上) 状況紹介</p> <p>3) ILSI スポンサーシップガイドライン策定</p> <p>4) ILSI としての科学的関心分野まとめ</p> <p>5) ILSI 新規ブックレット策定作業</p> <p>6) 本部が進めている作業部会情報 (科学的関心領域、今後の総会の在り方、スポンサーシップガイドライン、コミュニケーション)</p> <p>(2) 他支部活動</p> <p>1) 台湾支部訪日対応 (3/28～4/26) 6月17日(月)～22日(土)の期間来日。食品企業の研究所、工場、ミュージアム訪問をアレンジ。 ✓ ILSI Japan 研究部会長へ情報交換会議への参画希望を確認。 ✓ 国際協力委員会に対応を要請</p> <p>2) 韓国支部 (4/8, 9) 第2回 ALSIN 会議開催の件 (9/18～20) ミニシンポジウム：“Health claims over the world in regulatory systemic aspects”を計画。日本からのアップデート情報提供の要請あり。</p>
5, 6月	<p>(1) 本部活動</p> <p>TAKE10!®商標対応 (5/28, 6/7, 13) ILSI Research Foundation の後継団体、the Agriculture and Food Systems Institute (AFSI) が商標を維持していることから、今後の進め方について打診メール、リマインドメールを送付。</p> <p>(2) 他支部活動</p> <p>1) ILSI Taiwan (6/17-21) 訪日対応</p> <p>① 6月17日(月) 理化学研究所 (横浜)、カップヌードルミュージアム</p> <p>② 6月18日(火) キッコーマン、明治</p> <p>③ 6月19日(水) セブンイレブン、JFEX FOOD (加工食品 EXPO)、国立医薬品食品衛生研究所</p> <p>④ 6月20日(木) 味の素、花王</p> <p>⑤ 6月21日(金) ILSI Japan、サントリー武蔵野工場</p>

	<p>2) 東南アジア地域支部 (6/26) Web 会議を開催し、情報交換した。</p> <p>① ILSI SEAR の会費、活動費徴収枠組み</p> <p>② ILSI SEAR—Japan 共同研究部会について 農水省プロジェクト 合同メンバー交流、研究部会設立</p>
7, 8 月	<p>1. 島田理事面談 (7/25, 8/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農林水産省補助事業取得に向け、ILSI Japan のこれまでの活動状況、現在の能力について情報提供。農林水産省の関連部署にて、情報入手を約束いただいた。 ● 農林水産省において、新事業・食品産業部、消費安全局等、関連部署を訪問され、ILSI Japan 理事として担当者と面談されたとの報告を受けた。
9, 10 月	<p>1. ILSI 本部関係</p> <p>(1) 事務局長会議 (9/25)</p> <p>1) 2025 年 8 月開催の ICN への参加・出展 (セッションの内容) に向け、項目の確認を実施。今後セッション項目を確定し、担当、内容を決める。</p> <p>① 文献レビューのためのレスポンシブル AI、② ヘルシーエイジングに向けた栄養、③ 健康的な人生の基礎となる幼少期の栄養、④ マイクロバイオーム、⑤ ビタミンとミネラル、⑥ 精密栄養学、が現時点での候補。</p> <p>2) ポストバイティクスに関する国際活動 (消費者の知識と理解、今後のサイエンスの特定) 紹介 (ILSI Europe を中心)。</p> <p>3) 各地域・支部の活動報告。</p> <p>(2) グローバル理事会、グローバルアセンブリー会議連絡 (10/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の会議予定 ① 12 月 5 日にグローバル理事会開催 ② 12 月 18 日にグローバルアセンブリー開催 ・2025 年総会 (バーチャル) 企画委員会への参画要請 <p>2. TAKE10! ®の商標対応 (9/11-29)</p> <p>本商標は、ILSI Research Foundation (ILSI RF) が元々所有。日本における実施権は、ILSI Japan が持ち、権利継続、拡大については費用面も含め対応してきた。現在、TAKE10! ®活動は、概ね日本のみとなっている。一方、ILSI RF が無くなり、Agriculture & Food Systems Institute (AFSI) が後継として仕事を担っている。そこで、日本における登録名義変更が必要であり、AFSI に変更手続きの必要性を説明し、お手伝いすると同時に変更完了後に商標を ILSI Japan に譲渡するように依頼。先方からはその方向で進めることが了承された。</p>
11, 12 月	<p>1. 栄養学レビュー誌の編集業務を担当された箸本弘一氏、バイオテクノロジー部会を担当された在田典弘氏が 12 月末に退職された。</p> <p>2. ILSI 本部関係</p> <p>1) グローバル理事会、グローバルアセンブリー会議 (12/5, 18)</p> <p>① The ILSI Federation at ICN 2025 2025 年 8 月にパリで開催の ICN に ILSI として、ブース並びに 6 つのセッションを提案。</p> <p>② The 2030 ILSI Annual Report 5 年毎の報告書の中味 (サイエンス、他団体との違い、予算等) について議論。</p>

③ Nomination Review/ILSI Global Board of Trustees, Global Assembly

アジア地域は、変更なし。

④ Global Finance Discussion

支部拠出金は、現在約 US\$12 万、2018 年当時 US\$71 万から、かなり減少。

⑤ 2025 Global Annual Meeting (virtual)

ILSI U.S. & Canada 年会（4 月開催）との兼ね合いで 2025 夏に開催する。

2) Take10!®の商標対応（11/17, 20, 12/25）

① 本商標について、ILSI 研究財団後継の AFSI への権利者表示変更を完了。

② AFSI に連絡すると同時に次の段階として本商標を ILSI Japan へ移譲を要請（11/20）。

移譲登録文書を先方に送付し、該当部分への署名を要請（12/25）